

ドラッグインフォメーション

2020年11月改訂

販売名	パンクレアチン「ヨシダ」	製造販売	吉田製薬株式会社				
局方名	日本薬局方 パンクレアチン						
洋名	Pancreatin	発売年月	1964年5月				
一般名	パンクレアチン	薬価収載年月	1964年5月				
剤形	散剤	薬価	1g 9.10 健保適用				
規制区分	普通薬	日本標準商品分類番号	872331				
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード		2331006X1195	YJコード				
			2331006X1195				
性状	本剤は白色～淡黄色の粉末で、特異なおいがある。						
組成	本剤1g中、日局パンクレアチン1gを含む。 主としてブタのすい臓から製したもので、でんぷん消化力、たん白消化力及び脂肪消化力がある 酵素剤である。適当な賦形剤で薄めてある。						
効能効果	消化異常症状の改善						
用法用量	パンクレアチンとして、通常成人1回1gを1日3回食後に経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。						
<p style="text-align: center;">禁忌（次の患者には投与しないこと）</p> <p>1. 本剤に対して過敏症の既往歴のある患者</p> <p>2. ウシ又はブタたん白質に対し過敏症の既往歴のある患者</p>							
配合変化	鉍酸、過量の炭酸アルカリ又は水酸化アルカリにより失活する水溶液は熱、酸、強アルコール、金属塩及びタンニン酸によって沈殿する。						
薬理作用	<p>プロテアーゼ、アミラーゼ、リパーゼなどの多くの酵素を含有し、広範囲な食物の消化を行う。</p> <p>本品は中性～弱アルカリ性で強い活性を示し、脂肪を脂肪酸とグリセリンに、たん白質をプロテオースとその誘導体に、デンプンをデキストリンと糖に変化させる。</p> <p>パンクレアチンは中性又はアルカリ性溶液中でペプシンを破壊し、酸性ではペプシンに破壊される。</p>						
使用上の注意	<p>1. 副作用</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <tr> <td style="width: 50%;">種類 / 頻度</td> <td style="width: 50%;">頻度不明</td> </tr> <tr> <td>過敏症</td> <td>くしゃみ、流涙、皮膚発赤等</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">注）症状があらわれた場合には、投与を中止すること。</p> <p>2. 適用上の注意</p> <p>服用時</p> <p>（1）投与に際しては、直ちに飲みくたすように注意すること。（小児が誤って本剤を大量に停滞させたため、口内炎及び口腔内潰瘍を起こしたとの報告がある。）</p> <p>（2）投与に際しては、粉末を吸入しないように注意すること。（本剤の吸入により気管支痙攣、鼻炎を起こしたとの報告がある。）</p>			種類 / 頻度	頻度不明	過敏症	くしゃみ、流涙、皮膚発赤等
種類 / 頻度	頻度不明						
過敏症	くしゃみ、流涙、皮膚発赤等						
取扱上の注意	<p>本品は動物原料であるので、季節等により製品の色調やにおいが一定しないことがある。</p> <p>貯法：気密容器にいれ、30℃以下で保存すること。 吸湿しやすいので、乾燥したところに保存すること。</p> <p>使用期限：3年間 使用期限（レツテルに記載）を過ぎたものは使用しないこと。</p> <p>包装単位：100g、500g</p>						
文献請求先	<p>吉田製薬株式会社 学術部</p> <p>東京都中野区中央5-1-10</p>						